田口理穂＊ドイツのエコあれこれ　No. 37

社会的共存をめざして再開発

ドイツ第2の大都市であるハンブルク（人口190万人）は、北海から100キロほどエルベ川を遡った内陸にある港町です。中世から貿易で栄えたハンザ同盟の都市で、水兵が立ち寄る異文化情緒溢れる街です。赤レンガで造られた倉庫街の建物は、今でも倉庫やオフィスとして使われ、飲食店や小売店、博物館も入っています。

倉庫街の向こう、エルベ川を挟んだ先は工業地帯であり、海外からの貨物が荷揚げされる場所でした。以前は川を渡る橋に税関があり、一般市民には縁のない地区でした。しかし1990年代、当時の市長が再開発して活気あふれる生活圏にしようと発案。「すべての層の人々が住み、働き、共存できるよう自然豊かで持続可能な地区」をつくることにしました。土地はもともと市の所有でしたから、再開発にあたって投資家や事業者を探す際、持続可能な建築にするという条件をつけ、2000年から開発工事が始まりました。

それが陸地123ha（川を合わせると157ha）の広さを誇るハーフェンシティ（直訳すると港シティ）と呼ばれる地区です。現在は8500人が住み、1万5000人が働き、930以上の企業が拠点を構えています。2030年に完成すると、居住者は1万7000人、就業者は4万5000人となる予定です。

地区内には高級住宅だけでなく、経済的弱者用住居、事業所、商業施設が混在。建物の一階はレストランやカフェ、小売店、薬局、診療所、幼稚園、書店、雑貨店、ドラッグストアとなっており、人々の交流を促しています。

3つの大学や研究所もあり、最新の科学技術が集う場所でもあります。

2017年に完成した音楽堂・エルプフィルハーモニーはハーフェンシティのシンボルとして親しまれています。

特に芸術に力を入れていて毎日のように音楽や美術などさまざまな催しが開かれ、市民はもちろん、他都市や海外から訪れた人で賑わっています。

同地区の子どものいる世帯の割合は26％と、市内の他地区の18％と比べて高くなっています。

3年ごとに開かれる建築展では、インフォセンターが木材と金属からできたアート作品の一部となっています。金属は窓枠の材料として後日ハーフェンシティの工事に使われる予定で、木材は窓枠を製造する際に利用した廃材です。展示された後も、近所の小学校で棚づくりの材料となります。子どもたちは木の扱いを学ぶことができ、棚を自分で作るから学校は棚代を節約できるといいことづくめ。このように地域住民を巻き込み、持続可能を重視した取り組みをしています。

ハンブルクの既存の市街地は建物と道路が土地の90％を占め、広場や公園など公共スペースは5％しかありません。しかしハーフェンシティは、公共スペースが23％と多く、人々が川沿いを散歩したり、広場のベンチでくつろぐ姿が見られます。個性豊かな建物に、おしゃれなカフェや店舗があり、歩くだけでわくわくします。

生活にも観光にも魅力あるこの地区は、いろんな人たちが触れ合う場となっていて、誰も取りこぼさないというコンセプトを実現しています。

ごみかんドイツ特派員　田口 理穂

AKIRAの成長記録

明の学校では6年間クラス替えがありませんでしたが、夏休み明けにはいよいよクラス替え。クラスメートとのお別れを前に修学旅行がありました。400キロ離れた南ドイツのハイデルベルクへ、隣のクラスと合同で生徒52人、先生3人で出かけ、4泊5日を過ごしました。修学旅行といっても各クラスの担任が計画して予約するので、旅行先もまちまちです。

朝食はついていますが、昼食と夕食は自前。日本のように充実した惣菜や弁当はないし、ロシアのウクライナ侵攻により物価高ですが、先生は「ホテルの共同キッチンで自炊できるし、スーパーのパンとチーズでも十分おいしい」とのこと。また「55人一緒に食べれるレストランはなかったし、ホテルの夕食は12ユーロ（2000円）と高いのでやめた」と先生は言い、日本のように全員そろって食事をすることは重要視されていないようです。

食事代に55ユーロ、お小遣いは50ユーロまでという目安が示されましたが、ファーストフードのセットでも10ユーロ（1500円）もするので、明は食事だけで90ユーロかかったといいます。

日本の修学旅行なら急ぎ足で名所を回るところですが、明たちは大学や博物館、プールにみんなで出かけたほか、毎日4、5時間は自由でした。明は友達とお揃いのTシャツを買ったり、クラス対抗バレーボール大会に向けて公園でバレーボールをしたり。「5メートルの飛び込み台があって、プールが一番楽しかった。最後の夜は全員でピザを買って公園で食べた」とにこにこ顔。日本の修学旅行と違い、ドイツのそれは自分で決めて行動することが大事にしているなようで日独の違いを感じました。

ところで結局、明は転校はせず、飛び級して日本とフランスに各半年留学します。8月から長野県の公立高校に実家から通うので、私もお弁当係として一緒に帰省します。